

岩手県釜石市

Resilience & Try !

東日本大震災からの観光復興の概要

株式会社かまいしDMC

サステナビリティ・コーディネーター 久保 竜太



平成23年3月11日、9 Mを超える津波が襲来

死者・行方不明者 **1,040**人

市内避難者 **9,883**人

約**3**割の住宅が被災（4,658戸／16,182戸）
（全壊2,957・大規模半壊395・半壊300・一部損壊1,006）

約**6**割の事業所が被災（1,382／2,396事業所）

約**9**割の漁船が被災（1,692隻／1,734隻）

家庭ごみ**50年分**のガレキ・津波堆積物（約100万トン）

震災復興 -前例のないまちづくり-

〈2013年当時、釜石市が直面した復興課題〉



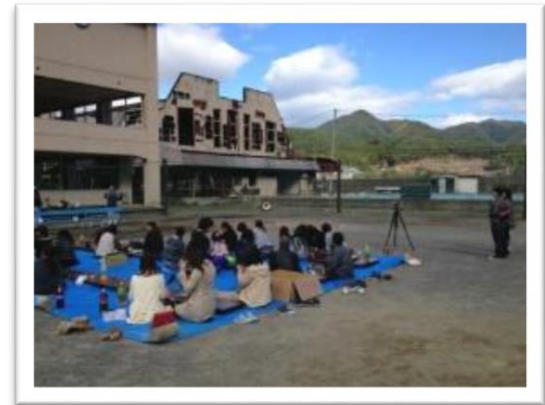
すまい

- 復興計画の策定
- 用地取得
- 施工業者の確保
- 工程・進捗管理の徹底



なりわい

- 商業者の事業再建
- 人手不足の解消
- 需給のミスマッチ解消



くらし

- 再建意向不明者への対応
- 地域コミュニティの再構築
- 見守り、心のケア、介護予防
- 仮設住宅の集約

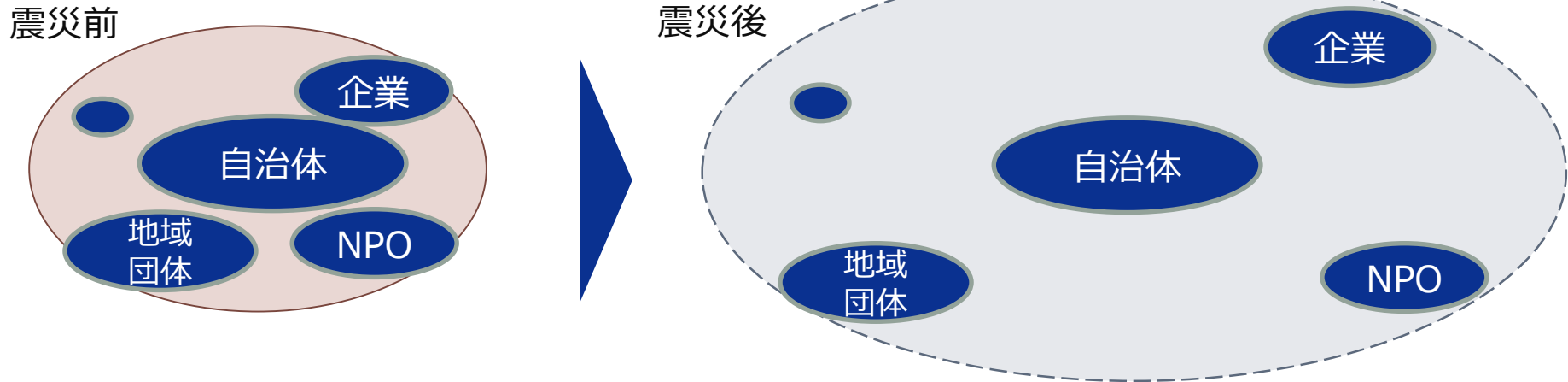
市の予算額は約**6倍**（平成23年度予算:172億 ↔ 平成26年度予算:1,080億）

↔ 市職員数は約**1.2倍**（平成23年2月:423人 ↔ 平成26年5月:523人）

= 行政の人手・専門性不足 …公助の限界

震災復興 -前例のないまちづくり-

<パブリックサービスの変化（イメージ）>



まちづくり関係者間のミスコミュニケーションが、“復興を遅らせる”要因に

- 例) 避難所→仮設住宅→災害公営住宅へ移行するごとに、コミュニティの再形成が喫緊の課題となる
- ⇔ 行政各課・NPO・ボランティア間の情報共有が滞ると、見守り活動・自治会形成なども非効率に
 - 住民のフラストレーションは行政批判へつながり、「すまい・なりわい」に関する官民の合意形成にも影響

釜石リージョナルコーディネーター（釜援隊）

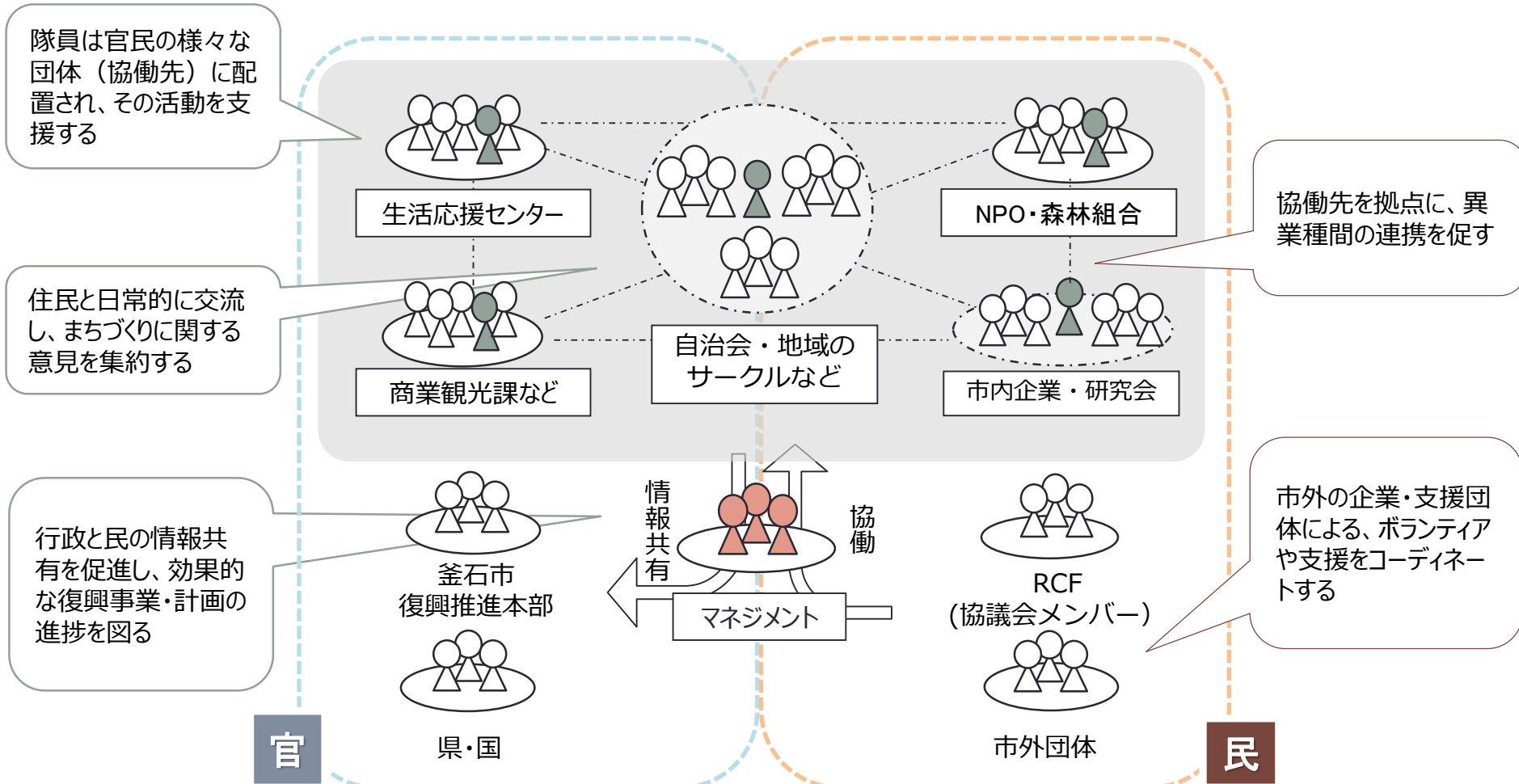
Kamaishi Regional Coordinator



- 総務省復興支援員制度に基づき、釜石市と業務委嘱契約を結んだ個人事業主
- 2013年4月に第1期7名が活動開始 / 2020年10月現在 13名（延べ30名採用）
- 約200名の応募を受け、外部人材を登用した復興/地方創生モデルとして注目を受ける（復興庁「復興功績顕彰」選定）

釜石リージョナルコーディネーター（釜援隊）

Kamaishi Regional Coordinator



<釜援隊活動関係図>



...釜援隊員

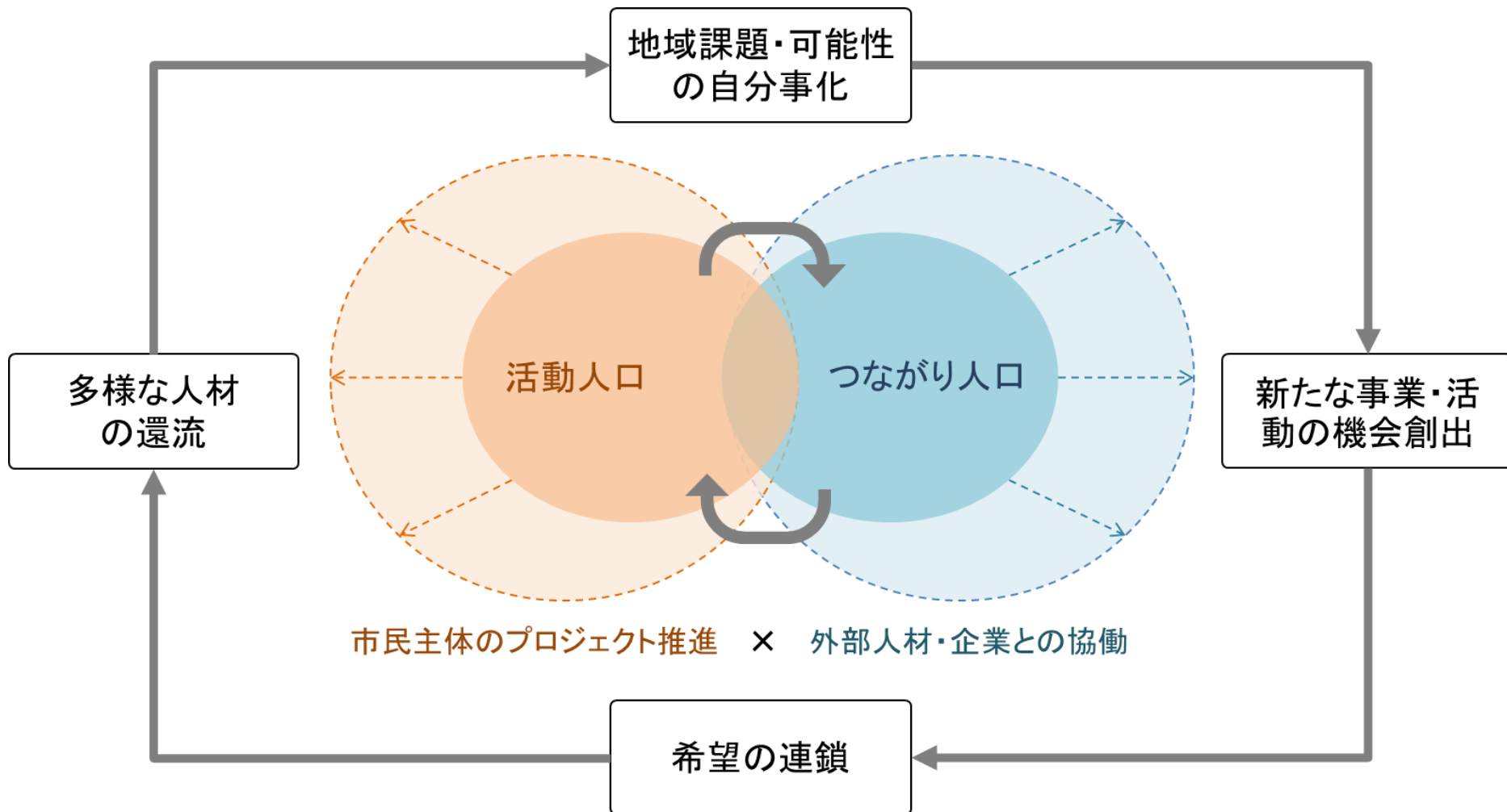
釜石オープンシティ戦略

the Kamaishi Resilience Strategy and Practice



釜石オープンシティ戦略

the Kamaishi Resilience Strategy and Practice



釜石市観光振興ビジョン

the Kamaishi City Tourism Vision



OPEN FIELD
MUSEUM
KAMAISHI



国際基準による持続可能な観光地域へ

Green Destinations 「世界の持続可能な観光地トップ100選」 選出



Kamaishi
Japan



第30回旅行動向シンポジウム 資料（主催：公益財団法人日本交通公社）

本資料の引用や転載はご遠慮ください